

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】  
2018年2月2日配信（No. 53号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局公共交通政策部が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

<mailto:kkt-kinki-kikakuka@ml.mlit.go.jp>

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

- 「平成29年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました。  
(近畿運輸局)
- 「第37回EST創発セミナー in 和歌山 [近畿]」を開催します。  
(近畿運輸局)
- 第69回さっぽろ雪まつり 大通会場西12丁目に「のりたろう」雪像が登場  
します！進捗状況報告  
(北海道運輸局)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

**「平成29年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました。**  
(近畿運輸局)

近畿運輸局では、平成30年1月19日（金）に、大阪私学会館（大阪府大阪市）において「平成29年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました。

本シンポジウムは、地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を受賞した取組等を参考に、利便性確保と効率性・生産性向上の双方についてバランスを取りながら実現する方策や、そのための地域の関係者の役割分担・協働のあり方等について理解を深めることを目的とするもので、地方自治体・交通事業者など210名を超える方々に参加いただきました。



大分大学 大井准教授

基調講演では、大分大学経済学部 准教授 大井 尚司 氏より、「地域公共交通の『5つのいませんか』から乗り越えて『創っていく』くらしの足へ～『相違』から『総意』『創意』へ、『遅延』から『地縁』へ～」をテーマにご講演いただきました。

- ①事業者がいつまでもあると思いませんか？
- ②利用者がいつまでもあると思いませんか？
- ③情報を出せば良いと思いませんか？
- ④地域をわかっていると思いませんか？
- ⑤金と手段と納期と常識（固定観念）が先になっていませんか？

の「5つのいませんか」について参加者に問いかけるとともに、「使う・使われる移動（交通）」を実現するために、住民・自治体・事業者等が時間を惜しまず地域（現場）に出向き、気持ちを共有しつつなることの重要性などについてご説明いただきました。

続いて、事例紹介では、過疎化が進む兵庫県<sup>しそうし</sup>宍粟市でのバスを使った文化づくりについてご紹介いただきました。

宍粟市では、公共交通を「住民の暮らしを守るための重要なインフラ」と位置づけており、強い覚悟をもって、バスネットワークの抜本的な再編が実施されました。自治体・交通事業者のそれぞれの視点から、再編に至るまでの検討過程・運行開始後の取組・今後の課題等について、熱い想いを交えながらご説明いただきました。



宍粟市 西嶋副課長  
(株)ウエスト神姫 須和代表取締役  
篠陽タクシー(有) 出雲代表取締役



福岡市南区柏原三丁目町内会 大淵会長  
西日本鉄道(株) 洲脇課長  
福岡市 竹下課長

2つめの事例紹介として、高齢化が進展する福岡県福岡市南区柏原3丁目における、地域住民・事業者・行政の3者協働により実現した回送バスの活用による生活交通の確保について、実現までの取組や試行運行後の利用促進、本格運行に至ったポイントなどをご紹介いただきました。

持続可能なバス路線にするためには、コミュニケーションを密に取ることによる信頼関係の構築が大事であり、地域の要望についてはしっかりと精査をして、信念をもって取組を進めることの重要性について、迫力のある言葉を交えてご説明いただきました。

最後のパネルディスカッションでは、冒頭に、大阪大学COデザインセンター 特任教授 土井 勉 氏より、地域公共交通は福祉・教育・商業・観光など様々な分野に効果を提供するもの（クロスセクター効果）であり、地域公共交通の「赤字」を「地域を支えるための費用」として捉えることの重要性についてご説明いただきました。

また、各パネリストからはそれぞれの取組のポイントや地域に与えた影響など、様々な視点から話題の提供をいただき、活発な意見交換が行われました。



大阪大学 土井教授

【パネリスト】

- 宍粟市 まちづくり推進部 部長 富田 健次 氏
- (株)ウエスト神姫 代表取締役 須和 憲和 氏
- 篠陽タクシー(有) 代表取締役 出雲 聖士 氏
- 福岡市南区柏原三丁目町内会 会長 大淵 浩一 氏
- 西日本鉄道(株) 自動車事業本部営業部南営業課  
課長 洲脇 祐子 氏
- 福岡市 住宅都市局都市計画部交通計画課  
課長 竹下 和宏 氏
- 大分大学 経済学部 准教授 大井 尚司 氏
- 近畿運輸局 交通政策部 部長 大辻 統

【コーディネーター】

- 大阪大学COデザインセンター 特任教授 土井 勉 氏



パネルディスカッションの様子

シンポジウムの詳細については、近畿運輸局ホームページに掲載しております。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/kansai/program/symposium2017.html>

**「第37回EST創発セミナー in 和歌山 [近畿]」を開催します。**  
(近畿運輸局)

近畿運輸局では、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団とともに、市民やさまざまな関係者が連携・協働し、公共交通が利用しやすく、環境にやさしい交通まちづくりを目指すため、「第37回EST創発セミナーin和歌山市〔近畿〕～連携・協働によるやさしい交通まちづくり～」を開催します。

前半は、学識経験者から、環境に配慮された公共交通に基づくまちづくりの重要性や、市民等の関係者による公共交通の維持・確保に向けた取組の方向性についてご講演いただくとともに、市民協働による公共交通を軸にしたまちづくりに取組む自治体から、その取組内容について紹介していただきます。

後半は、「連携・協働による環境にやさしい交通まちづくり」をテーマに、講演いただいた方々に、地元団体、交通事業者、国を加えてパネルディスカッションを実施します。

■ 開催日時

平成30年2月17日（土）13:30～16:45（受付開始：13:00～）

■ 場所

和歌山市小人町29番地 あいあいセンター内  
男女共生推進センター 6階ホール

■ 主催

国土交通省近畿運輸局、EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

■ 定員

150名（先着受付順） ※参加費無料

■ 申込方法

「環境的に持続可能な交通（EST）ポータルサイト」内の申込フォーマット  
(<http://www.estfukyu.jp/form/form21.html>)よりお申し込みください。

■ プログラム

基調講演：土井 勉 氏（大阪大学COデザインセンター 特任教授）

「連携・協働による環境にやさしい交通まちづくり」

特別講演：青木 保親 氏（岐阜市企画部 交通総合政策審議監）

「持続性の高いバスネットワークを軸としたまちづくり」

パネルディスカッション「連携・協働による環境にやさしい交通まちづくり」

コーディネーター：辻本 勝久 氏（和歌山大学経済学部 教授）

パネリスト：講演者他

※環境的に持続可能な交通（EST）ポータルサイト：<http://www.estfukyu.jp/>

## 第69回さっぽろ雪まつり

### 大通会場西12丁目に「のりたろう」雪像が登場します！進捗状況報告

(北海道運輸局)

第69回さっぽろ雪まつりは平成30年2月5日(月)～平成30年2月12日(月)の期間、札幌市内3会場で開催されます。

前号のメールマガジンで発表していたとおり、北海道運輸局雪像プロジェクトチームが、大通会場西12丁目で公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」の雪像を制作することが決まりました。今回はその進捗状況をご紹介します。

雪像制作に先立ち、1月13日(土)に技術講習会が開かれ、スコップやケレン棒といった道具の使い方を教わりました。ケレン棒とは、もんじゃ焼きのヘラを大きくしたような形状のもので、雪像を彫る際の目安になる印を付けたり、表面を削って形成するのに使用するのだそうです。



技術講習会



制作家 粘土のりたろう

また、この日は、雪まつり実行委員会による雪像のミニチュア版の事前チェックが行われました。前号でご紹介したあぶら粘土で作成したミニチュアを持ち込み、チェックを受けました。12月の抽選会後からデザイン等を検討し、小学生以来の粘土細工に悪戦苦闘の末に年末年始返上でようやく完成させた「粘土のりたろう」です。

スタッフの方から、「細かなパーツのハンドルとパンタグラフは、シャーベット状の雪で別に作成し、最後に合わせると良いですよ。」とアドバイスを受けました。

1月31日(水)からいよいよ雪像制作に取りかかります。高さ3メートルほどの豆腐のような雪の塊から、様々な形に加工していきます。果たして「のりたろう」の姿になるかどうか？！是非会場にてご確認ください。



巨大な豆腐のような雪の塊



大通会場へは、地下鉄、バス、市電でのアクセスが可能です。

「来場の際は、公共交通にのろう！」



## < 掲 示 板 >

### ☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

### ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

#### 公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

#### 【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: [koutsukeikaku\\_joho@mlit.go.jp](mailto:koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp)

#### ★国土交通省HP（情報発信のページ）

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html)



